

## いよいよ始まる一回勝負

# 決

戦の舞台イイヅカコスモスコモンは、筑豊地区の各地から集まった多くの中学生たちで異様な熱気に包まれていた。

7月27日、九州吹奏楽コンクール福岡県大会筑豊支部予選Aパート中学生の部には、筑豊地区の中学校26校が参加する。演奏会場の大ホールでは、大観衆と審査員の前で、各中学校が次々と演奏を行っている。

桂中吹奏楽部の演奏は21番目。舞台袖で出番を待つ部員たちは、これまで繰り返しやってきた息を合わせる練習をみんなで行い、呼吸を整える。ある部員は楽譜を読み返し、ある部員は舞台の方向をじっと見つめる。部員たちの緊張した表情は、本番が迫るにつれ、次第に決意の表情へと変わっていく。

前の中学校の演奏が終わわり、部員たちは係員に促されて舞台へと足を進め、演奏の準備を始める。これまでの練習の成果を見せる、泣いても笑っても一回の勝負。

「21番、桂川町立桂川中学校」  
場内アナウンスがそう告げると、指揮者である藤井先生の指揮棒が動き、桂中吹奏楽部の演奏は始まった。

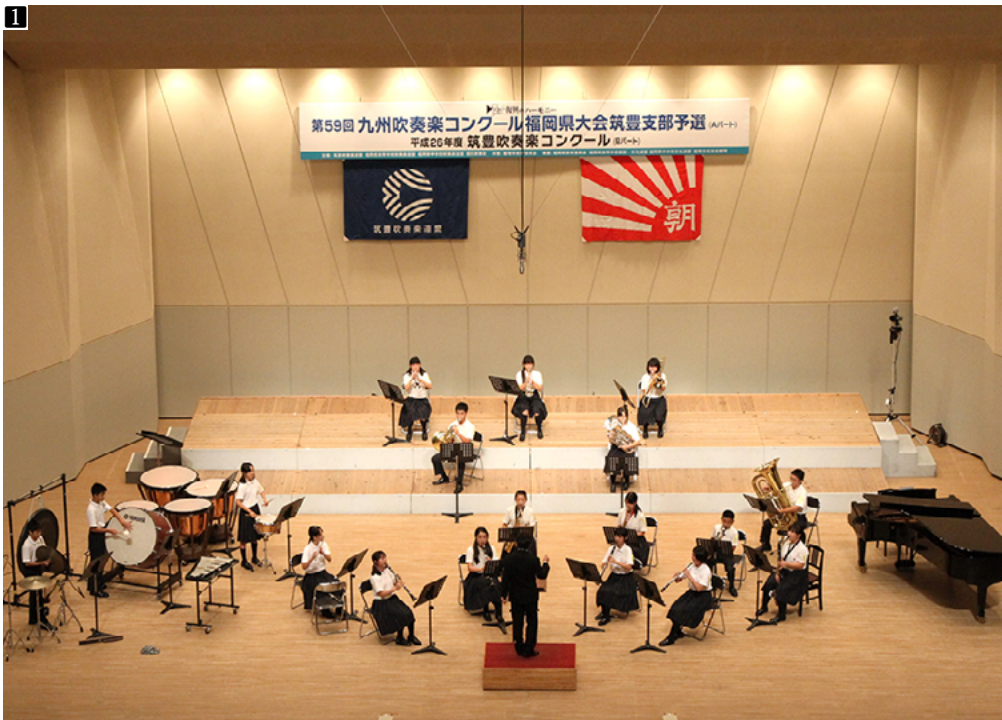
## コンクールの演奏を終えて

# 後

日、藤井先生はコンクールでの演奏について次のように振り返った。「生徒一人ひとりの気持ちが一つになった素晴らしい演奏でした。単なる気持ちではなく、練習に裏づけされた気持ちだからこそできた演奏です」

演奏後、舞台裏に戻ってきた部員たち。オーボエのソロ演奏を完ぺきにこなした中嶋さんの目には涙。「演奏中は夢中で何も考えなかったんですが、最後にコンクールで演奏しているという実感が湧いてきました。そこから、これまでやってきたことが思い浮かんで：」と涙の理由を話す。  
ティンパニの深野さんは「緊張したけどやり切りました。絶対金賞です！」と笑顔がはじける。

そして、一年生ながらソロを担当した安永尚矢くんの目にも涙。ただでさえ緊張する初めてのコンクール、そしてソロ演奏。その計り知れないプレッシャーから解放されて安心したようだ。  
部員たちは一旦会場の外に出て記念撮影などを行い、表彰式を待つ。笑顔の部員も涙の部員も、その表情はやり切った充実感でいっぱいだった。



1 コンクール本番での演奏の様子（写真提供：㈱大阪フォトサービス）。少人数のため、すき間が多く空いているように見える。2 コンクール直前には二泊三日の強化合宿も実施。前顧問の岡本先生やOBも応援に駆け付けた。3 コンクール会場には多くの中学校吹奏楽部の生徒たちの姿。4 本番前のチューニングの様子。5 本番前の舞台袖で緊張した表情を見せる部員たち。

